

令和 2 年 7 月度情報発信 No.90

㈱材料・環境研究所 代表取締役 長野博夫

貴社益々ご繁栄のこととお喜び申し上げます。いつもお世話になっており、ありがとうございます。

前報においても、新型コロナウイルスに触れましたが、現在は外出自粛が解除され、コロナ対策と経済を両立させるとの政府の方針が出て、東京を中心に、大阪、福岡、愛知などにおいて新型コロナ発症者が大幅に増加の一途をたどっています。このまま行けば、新型コロナウイルスの第2波に入り、制御できなくなる恐れもあると大変心配されている。個人的に出来る対策として、手洗いの励行、マスク着用、三密を避けるなどは基本事項であるが、私自身、外出は出来るだけ避けております。

今後のリモートワークを考えて、この6、7月、webワークの練習と実習を積みました。一応やり方はマスターできたので、今後はこのスキルを仕事に活用していきたいと考えています。コンサルティングやセミナー、或いは各種会議の出席に生かしていけるようにしたい。

この2ヶ月の経験として、

- ① セミナー講演用にPPTナレーションのビデオ録音を作成し、セミナーを講師抜きで無人で行いました。聴講者は、セミナー主催者からUSBを入手し、繰り返し聞けるので、メリットもあるようです。一方、講師の方にとっては、PPTナレーションには対面講義と比べて準備に相当時間を要することが分かりました。
- ② Skypeはアプリをダウンロードし、使用できる目途を得ました。大学やW社と仕事の打ち合わせに使いました。反省として、1時間以内の打ち合わせが、集中でき効率的と思いました。
- ③ 大阪市大兼子先生のアドバイスでZoomをできるようにしました。時間は1回当たり45分間の区切りになりますが、多数の方との会議に適するようで、また、会議中にファイルの使用や手書きも可能なことが分かりました。たまたま、この7月末に大阪での理事会をZOOMでやりたいがとの打診が(公社)大阪技術振興協会の主催者から来たので、その試みに乗りました。

Webによるリモートワークのことは、皆様方は習熟のレベルにあるかと思いますが、当方遅ればせながらテレワークに奮闘している次第です。SkypeおよびZoomの技術打合せへの利用は、定刻時間を決めて行くと非常に有効かとおもいます。弊社との打ち合わせに活用いただければ幸いです。

特別報告 文献紹介：濃厚アルカリ溶液中の二相ステンレス鋼の腐食

原題：Corrosion in Caustic Soda in Mineral Processing Operations、Roger Francis and Steve Clarke, Corrosion, Vol.76. p.707~715 (2020).

二相ステンレス鋼は、フェライト相とオーステナイト相から形成され、高耐食性及び高強度から、各種化学工業プロセス、海水淡水化装置、貯水用タンク用材料として使用されています。高温、高濃度のアルカリによる応力腐食割れに関するデータをご紹介します。

特記事項

- ① 大阪技術振興協会 定時総会に監事として出席（大阪、6月7日）
- ② 大阪技術振興協会主催、技術士一次試験受験セミナー PPTナレーションによる講義（6月13日）
- ③ 英会話（神戸市、6月25日）
- ④ 技術士一次試験受験セミナー講義、大阪ガス（大阪、7月1日）
- ⑤ 英会話（神戸市、7月2日）
- ⑥ 英会話（神戸市、7月9日）
- ⑦ 委託研究結果について、W社とSkypeによる打ち合わせ（7月10日）
- ⑧ 腐食問題について裁判対策打合せ。資料の作成を依頼される（大阪、7月15日）
- ⑨ 英会話（神戸市、7月16日）
- ⑩ 大阪技術振興協会 Zoomによる理事会のリハーサル（大阪、7月29日）
- ⑪ 英会話（神戸市、7月30日）
- ⑫ 大阪技術振興協会 Zoomによる理事会（大阪、7月31日）
- ⑬ 新型コロナウイルス（the COVID-19）に対する米国防食協会（NACE

International）の対応：私は、長年にわたり NACE の会員で、毎月協会から論文誌 Corrosion と技術情報誌 MP(Materials Performance) が送られてくる。両誌とも、腐食防食関連で有益な情報をもたらして

くれる。ところが、雑誌 Corrosion は今年度も毎月順調に船便で送られてくるが、MP は今年 4 月号を最後に 5, 6, 7 号とも未着である。協会事務局に問い合わせたところ、返答は国際会員の方々が、この the COVID-19 のもと、安全に雑誌を入手するために、デジタル方式、すなわち、電子方式で入手されたいとのことで、MP が送られて来ないことに納得した。今や、雑誌の国際便においても、航空便や船便の時代ではなくて、安全なデジタル方式の時代になった。早速、雑誌 MP を協会のインターネットから、必要情報、或いは、論文を選んで入手した。

以上